

海士町視察を通じて地域課題の解決に向けた実践的な学びを深めている。移住施策や組織づくりなど幅広いテーマを現地で学び、得た気づきを職場改善や地域活動へ還元してきた。写真や図版を交えながら、職員主体の取り組みがどのように広がっているかを紹介する。

学びを実践へ ——海士町視察から始まる職場改善の取り組み——

島根県本部／美郷町職員組合 漆谷 瑛介

1. 海士町視察の位置づけ

自治体職員としての資質向上と地域課題の解決に向けた実践的な学びを目的に、毎年海士町への視察研修を実施している。これまでに6回、延べ24名が参加し、各回4名程度の職員が事前学習を重ねて現地を訪問してきた。海士町は、人口減少や財政難を乗り越え、全国から注目される地域づくりを進めてきた自治体であり、私たちにとって学びの宝庫である。

2. 視察での学び

視察では、移住・定住施策、関係人口の創出、組織づくり、人材確保、教育、福祉、データ活用など多岐にわたるテーマについて、事前に質問事項を整理し、海士町職員や地域関係者との意見交換を行っている。単なる先進事例の見学ではなく、「住民主体のまちづくりとは何か」「職員が地域のためにできることは何か」といった根源的な問いを持ち、現地の実践から学びを深めることを重視している。

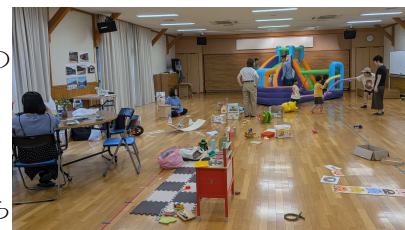
海士町の取り組みは、住民が主体的に動き、行政がそれを支えるという構図が明確である。職員が地域に入り込み、住民とともに課題を共有し、解決策を探る姿勢は、美郷町の職員にとっても大きな刺激となっている。

3. 学びを職場へ還元

視察で得た気づきは、職場改善や地域活動として形になり始めている。

●子どもの居場所づくり

海士町で見た「地域のつながりを育む場づくり」を参考に、休日に子どもの居場所をつくる取り組みを開始した。“よかよか”という名前にし、子どもに対して自由な遊びや交流を通して育ってほしいという思いから「何してもいいよ」という意味を込めて、大人に対しては余暇を楽しむ場として欲しいという思いからこのような命名にしました。この取り組みで地域の子どもたちが安心して過ごせる環境づくりにつながっている。

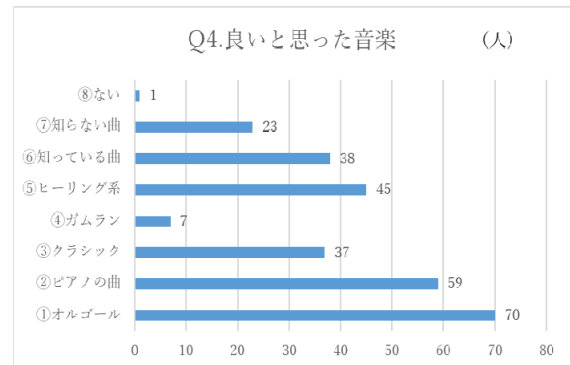
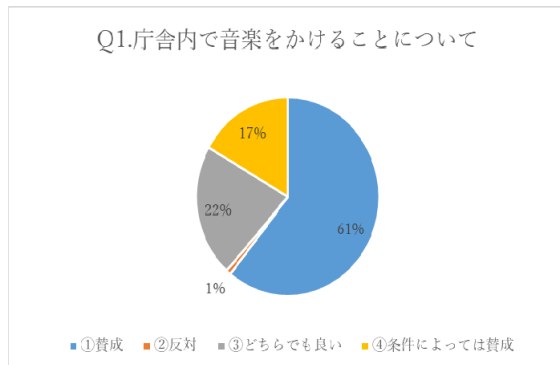


子育て世代の居場所づくり
(よかよか)の様子

●庁舎の雰囲気づくり

来庁者が気軽に立ち寄れる役場を目指し、庁舎内でBGMを流す取り組みも始めた。海士町役場で感じた温かい雰囲気がヒントとなっている。

※実施アンケートより抜粋



4. 職員の学び合いの場づくり

職員同士の知識共有と政策形成能力の向上を目的として、定例議会終了後に議会で話題となったテーマについて学び合う勉強会を年4回開催している。所属部署を超えた情報共有が進み、町の政策に対する理解が深まることで、職員一人ひとりの視野が広がり、組織全体の政策形成力の底上げにつながっている。



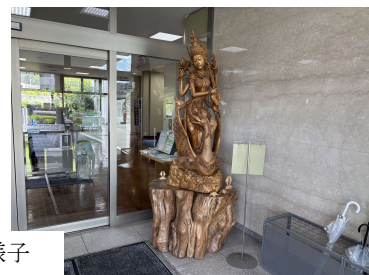
勉強会の様子

5. 庁舎環境の改善

くにびき国体でのカヌー競技誘致を契機に国際交流事業で長年交流を続けているバリ島をイメージした装飾を庁舎正面玄関に施し、明るく親しみやすい雰囲気づくりを進めている。これは、海士町で感じた「役場は地域の拠点であり、住民が気軽に訪れられる場であるべき」という考え方を、美郷町なりに表現した取り組みである。



役場庁舎正面玄関装飾の様子



6. 自治研活動の意義

自治研活動は、視察を行うこと自体が目的ではない。現地で得た学びを職場や地域に持ち帰り、実践し、その成果や課題を共有することで、組織としての成長につなげることに意義がある。参加者だけが学ぶのではなく、組合員全体で学びを共有し、町全体の職員力を高めていくことが重要である。

7. 今後の展望

今後も、美郷町職員組合は海士町視察をはじめとする自治研活動を継続し、学びを実践へとつなげる取り組みを進めていく。組合員一人ひとりが主体的に学び、行動することで、より良い職場環境づくりと地域づくりに貢献していきたい。